

5月は「母」の月

施設長 三代富士子

風薫る5月、吹く風が心地よい季節となりました。しかしながら今年は寒暖の差が大きく体調のコントロールが大変難しい春となりました。皆様はいかがお過ごしでしょうか？さて、5月と言えば「母の日」ですね。詩人のサトウハチローさんは「おかあさん」という詩を沢山詠みました。その中でこんな詩があります。

～金魚がぼやけてゆれました。叱られて池を見ているわたしです。金魚が沈んで消えました。いつのまにか母さんの顔になりました。うしろからのぞいて泣いてる母でした。～ サトウハチローさんの生きた時代の子育てと今の時代は大きく変化しています。しかし母親の、子を想う気持ちはシンプルです。悪い事をすれば叱り共に泣き、良き事があれば傍目を厭わず喜ぶ。そこに理屈ではない親子の無償の愛情が存在します。照陽の家、ひなたぼっこ保育園の朝はそんな親子の愛おしい光景から始まります。お母さんは保育士に子どもさんの様子を伝え手を振って急いで仕事先に向かわれます。すると子どもさんはお母さんの姿が、その車が見えなくなるまで見つめ手を振り続けます。こうしてお互いがお互いを愛おしく想う気持ちが子どもさんの心の中に刷り込まれ大人になるにつれ周りを想う気持ちに繋がるように思います。仕事と家庭の両立を実現していくお母さんは本当に大変です。周りの人々がそんな若いお母さんを理解し大切にしていける事、「母の日」はそんな日であるとも思います。

照陽の家は住み慣れた地域において、高齢者の方、お子様、地域の方、誰もが集い、多様なサービスや活動の中で支え合う拠点です。



園前で出来たいちごを摘み、食べました!少しすっぱかったです。



ひなたぼっこ保育園

米子市認可地域型小規模保育所



たけのこ掘りに出かけました!ちょっと怖いけど、たけのこに触ってみました。こんなにたくさん収穫!どんな給食メニューになるのかな?



子供たちが掘ってきたタケノコをおばあちゃん、おじいちゃんに報告しました。「大きいのが採れたね」と喜ばれました。

照陽の家には訪問看護ステーションハートケアがあります。

訪問看護とは看護師がご自宅を訪問し、看護ケアを提供し、療養生活を支援するサービスです。

訪問看護ステーション ハートケア

老人性そう痒症について

高齢期になって何となく全身が痒くなる時は、まず皮膚の老化による老人性そう痒症が考えられます。皮膚の脂肪分が失われ、乾燥するために起こる痒みです。下着で肌が擦れたりちょっと皮膚を掻いたりしただけでも、全身が痒くなります。空気の乾燥する冬になると痒みはひどくなり、汗をかく夏には軽くなります。入浴時に石鹸で体を洗いすぎたり、乾布摩擦をし過ぎたりすると、皮膚の脂肪分が落ちて痒みが起こるようになります。老人性そう痒症の場合にはいつも皮膚にうるおいを持たせる事が大切です。保湿剤を塗ると良いでしょう。

(痒みをやわらげる方法)

- ・下着は木綿の物を着用します。
- ・冷やすと痒みはやわらぎます。
- ・温かめのお湯で清拭します。
- ・保湿剤で皮膚にうるおいを。発疹がある場合は皮膚科受診しましょう。



今月の言葉

大きく目を見開き 良く耳を澄まし
そして 卒直な心で 相手や物事に接すれば
本当のものが見えてくる 聞こえてくる感じ取れる

～葉 祥明～